

目次

口絵

刊行のことば

三郷村誌刊行会長 西山 馥司 …… xvii

凡例

xix

I部 近代の三郷

第一章 維新変革と科布・温・明盛村の成立 …… 1

第一節 松本藩から長野県に至る支配の変化 …… 3

一 松本藩政改革・廃藩置県はてはんちけんと三郷村域 …… 3

二 廃藩置県・筑摩県成立と藩政・県政 …… 8

三 長野県政と郡区町村編制法による郡・村の成立 …… 13

四 自由民権運動・長野県会と村民 …… 20

第二節 地租改正と村の産業 …… 23

一 地租改正と税制改革 …… 23

二 明治初期の産業 …… 26

三 交通・郵便と村民生活 …… 30

第三節 村民生活と文明開化 …… 33

一 村人の気風と村民生活 …… 33

二 文明開化・博覧会と小学校の創立 …… 35

第二章 小倉・温・明盛三か村による村づくり …… 43

第一節 町村制の施行と三つの村役場 …… 45

一 村役場による村政 …… 45

二 区制の成立と区役割 …… 54

三 村会と議員の二等級選挙 …… 56

四 村財政と村民負担 …… 58

第二節 三郷村域と郡政・県政と国政 …… 69

一 南安曇郡役所と郡政 …… 69

二 県政・国政と村民 …… 70

第三節 諸産業の発達 …… 73

一 土地の利用と農業技術の進歩 …… 73

二 梓川水系諸堰せきの水利慣行 …… 76

1 引き継がれる水利慣行 2 井掛いがかりから水利組合へ …… 80

三 盛んになる養蚕・蚕種の生産 …… 83

四 農会と産業組合の設立 …… 83

1 温村農会の始まり 2 農会法の成立と温村農会 ……

- 3 農会法の成立と小倉村農会
- 4 産業組合法の成立と三か村

五 小倉官林と共有林・私有林……………86

- 1 小倉官林
- 2 共有林
- 3 私有林

六 商工業の発展と金融……………92

- 1 商業形態の変遷
- 2 金融の動向

第四節 変わる社会生活……………97

一 人口の動態と世帯の変化……………97

二 疾病・災害と衛生・防災……………101

- 1 消防組合の組織化
- 2 病気の状況と社会の高まり

三 衣食住の変化……………104

- 1 村民の日常生活
- 2 趣味と交友関係

- 3 家庭における金銭出入り
- 4 伊勢参り

四 日清・日露戦争と松本五十連隊……………107

- 1 日清・日露戦争と村
- 2 松本五十連隊

五 道路の整備と鉄道の開通……………109

- 1 明治初期の道路
- 2 明治中期・後期の道路

- 3 篠ノ井線敷設の経過

第五節 村の学校と村民文化……………115

一 村の小学校と教育施設の向上……………115

- 1 学校制度の変遷と三か村の学校

- 2 設備・施設の充実
- 3 明盛組合教育会の活動
- 4 盛んな学校行事

二 高等小学校と実業補習科……………121

- 1 明盛組合高等小学校の教育
- 2 実業補習科の設置

三 青年会(団)と婦人会の誕生……………124

- 1 青年会の創立とその活動
- 2 婦人会の設立

四 新しい文化の動向……………127

- 1 庶民の文化
- 2 生活改良運動と神社
- 3 寺院

第三章 進んだ三郷地域の近代化……………133

第一節 大正デモクラシーの展開……………135

一 村役場の仕事と村政……………135

- 1 村役場事務と人事
- 2 大正期の村政と村民

二 村財政の膨張……………140

- 1 膨らむ歳入
- 2 多方面にわたる歳出

三 村会議員選挙と村会の展開……………148

- 1 村会議員選挙
- 2 選挙と村会

三 高騰する物価、経済不況と村会……………151

四 郡制・郡役所の廃止と村政……………151

- 1 「郡制」と郡会
- 2 郡制と郡役所の廃止

五 県政・国政選挙と村民……………155

- 1 長野県会議員選挙

2 衆議院議員選挙と植原悦二郎

第二節 産業構造の変化と諸産業の発達……………157

一 三か村の村柄と農事研究・産業の進展……………157

二 産業別人口の構成……………158

三 農業と養蚕・蚕種……………160

1 農業技術の発達と生産性の向上……………160

2 稲の収量の変化……………160

3 麦その他の雑穀類……………160

4 芋・野菜と果樹……………167

5 畜産……………167

6 養蚕と蚕種業……………167

四 農会・産業組合の活動……………169

五 堰の運営と水利体制の変化……………169

1 県営梓川農業水利改良事業……………169

2 湯水時の中萱堰井掛り……………169

3 国営梓川農業水利改良事業……………172

六 小倉国有林の開墾と小作争議……………172

1 小倉国有林の払い下げとその背景……………172

2 小倉国有林の開墾計画……………172

3 一二年間に及ぶ開墾……………172

4 長引いた小作争議……………172

七 商工業・金融と第一次世界大戦後の不況……………182

1 大正期の商工業……………182

2 大正期からの経済不況と金融……………185

第三節 生活の近代化……………185

一 村の人口動態と国勢調査の開始……………185

1 村の人口の動態……………189

2 第一回国勢調査の実施……………189

三 出納簿にみる嫁入り事情……………190

四 衛生行政と村民の疫病……………192

五 消防組織の強化……………196

六 道路網の整備と信濃鉄道の開通……………197

1 信濃鉄道の敷設……………197

2 大正期の道路整備……………197

七 郵便物集配事務と電話の導入……………201

1 明盛郵便局における集配事務の開始……………201

2 三郷村域における電話の起り……………201

第四節 学校教育・社会教育の充実と村民文化……………205

一 六年制尋常小学校と高等小学校……………205

1 義務教育の延長と高等科の設置……………205

2 雑誌『温明教育』発行と家庭との連絡……………205

3 「温明騒動」の経緯……………205

4 個性・人格尊重の教育実践……………205

5 再び校舎の新増築……………205

二 教育の拡充と青年の教育……………214

三 青年会活動の興隆と女子青年会……………217

1 大正デモクラシーと青年会(団)……………217

2 女子青年団の創立……………217

四 婦人会活動と子育て・生活向上への取り組み……………218

1 大正期の婦人会……………218

2	勤儉奨励と迷信打破の呼び掛け	251
3	小学校長が語る「子育て」	252
4	子供たちの遊び	253
五	多様化する村民文化	254

第四章 大恐慌から戦時下への展開と三郷地域

第一節 諸産業の行き詰まりと村民負担

一	霜害・大恐慌と経済不況	227
二	繭価暴落と養蚕業の行き詰まり	228
三	農業経営の破綻と小作騒動	228
四	商工業・金融の破綻と村民	229

第二節 大恐慌から経済不況・戦時期の村

一	村の不況対策と経済更生運動	231
二	村政・村会と村財政	233
三	県政・国政と村政・村民	242

第三節 満州事変・日中戦争から太平洋戦争へ

一	戦争拡大下の人口動態	245
1	昭和不況期の人口	245
2	戦争中の人口動態	251
二	国民精神総動員運動から大政翼賛会運動へ	251
1	国民精神総動員運動と三か村	251
2	「聖旨奉戴教化指定村」としての温村	251

三 満州開拓団の送出

1	試験移民第一次弥栄村開拓団	256
2	試験移民第三次瑞穂村開拓団	256
3	試験移民第四次開原城子河開拓団	256
4	長野県第五次黒台信濃村開拓団	256
5	長野県第七次中和鎮信濃村開拓団	256
6	集合第一次康平長野開拓団	256
7	第九次羅圈河大門村開拓団	256
8	分郷第十一次小主南安曇郷開拓団	256
四	銃後の耐乏生活	259
五	戦争犠牲者の増大と村葬	263

第四節 戦時期の産業と統制経済

一	戦時期の農業と食糧増産	265
二	開墾と勤労奉仕	267
三	農会・産業組合の統制と農業会の成立	268
1	経済更生と温村農会・産業組合	268
2	産業組合・農業会とその活動	268
四	森林組合の設立と戦時下の林業	270
1	南安木材株式会社・小倉村森林組合の設立	270
2	木材の生産、販売統制	270
3	薪炭の生産と販売の統制	270
4	木材・木炭の配給	270
5	松根油および生松脂の生産	270
6	戦時期の造林政策	270

五	工業の軍事化	275
六	戦時統制と商業	276
七	新設と廃止を繰り返すバス路線	277

第五節 教育・文化の戦時体制化と村民

一	経済不況期の小学校と戦争拡大による児童生徒の動員	279
1	東の間の平和、昭和の幕開け	279
2	温明小学校の火災と復旧	279
3	教員給与の減額と欠食児童への給食実施	279
4	拡大する戦争と教育	279
二	国民学校の成立と戦時教育	287
1	国民学校の教科	287
2	徹底した「皇国民錬成」教育	287
3	学童疎開の受け入れ	287
4	切迫する戦局のなかでの学校	287
5	厳しい戦時期の教員研修	287
三	青年訓練所と青年学校の独立	296
四	戦時期の子供と季節保育所	299
五	太平洋戦争と青少年団	300
1	戦時体制と青年団(会)	300
2	大日本青少年団の結成	302
六	国防婦人会・大日本婦人会	302
七	満蒙開拓青少年義勇軍の送出	304
1	満蒙開拓青少年義勇軍の創設	304

2	満蒙開拓青少年義勇軍の募集	307
3	三郷村域における満蒙開拓青少年義勇軍の送出	307
八	武運長久・神社参拝と宗教統制	307
1	召集兵士の武運長久祈願と見送り	307
2	戦時期の神社参拝と宗教統制	307
九	ラジオ・新聞など情報統制と軍事郵便	308
1	ラジオの普及と情報統制	308
2	新聞の統制	308
3	軍事郵便	308
十	村民文化活動と戦争	311
1	「温村報」の創刊と廃刊	311
2	戦時期の文化活動	311
十一	それぞれの八月十五日	312
1	村の八月十五日	312
2	国民学校の八月十五日	312
3	戦地・軍隊・満州での八月十五日	312

II部 現代の三郷

第一章 小倉・温・明盛三か村と戦後の改革

第一節	小倉・温・明盛三か村の村政と村財政	317
一	敗戦と村政の転換	317
二	民主主義村政の開始	317
三	三か村の財政と戦後の改革	322
1	敗戦直後の三か村財政の特徴	325

2	教育制度改革への対応	319
3	シャープ勧告と地方財政改革	320
4	行政の末端組織としての組合（隣組）の消滅	321
四	県政・国政選挙と三か村民	331
1	県政選挙と村民	331
2	国政選挙と村民	332
3	選挙への関心を高める	333

第二節 農地改革と産業復興

一	農地改革	335
1	農地改革の歴史的背景	335
2	第一次農地改革	336
3	第二次農地改革	337
4	農地の買い取りと売り渡し	338
5	土地所有関係の変化	339
6	農地改革が残した問題	340
二	戦後の商工業	343
1	工業	343
2	商業	344
三	農業と食糧事情	347
1	戦前戦後の食糧事情	347
2	農業生産の状況	348

第三節 社会生活の立て直し

一	出征兵士の帰還と疎開者の転出	351
1	戦前（明治）昭和二十年）の世帯・人口の概観	351
2	敗戦前後の人口の移動	352
3	ベビーブームと人口	353
二	疾病・災害と医療・防災	356
1	疾病と医療	356
2	災害と防災	357

第四節 教育改革と村民の文化

三	飲料水の確保と簡易水道	359
1	早くから造られた小倉村の簡易水道	359
2	上水道への気運の高まり	360
3	簡易水道敷設の計画	361
四	社会福祉と民生委員制度	360
1	方面委員から民生委員へ	360
2	民生児童委員として	361
一	国民学校から小学校へ	363
1	まず戦時色を取り除くことから	363
2	勉強より働く日々	364
3	研修・研究と戦後教育の出發	365
二	小学校・中学校が同じ校舎で	367
1	併設の中学校発足	367
2	寄付に頼る学校整備費	368
3	盛んな新教育の研究	369
4	新教育の展開	370
三	P T Aの発足と施設の整備	372
1	父兄会からP T Aへ	372
2	P T Aの協力による施設整備	373
四	瑞穂 ^{みずほ} 中学校の誕生	373
五	新出 ^{みずほ} の青年団・婦人会	376
六	公民館の誕生とナトコ映画	378
1	公民館の誕生	378
2	ナトコ映画の巡回	379
3	公民館条例の制定と活動の充実	380
4	公民館分館の活動	381

第二章 三郷村の成立と村の行財政……………383

第一節 三郷村の誕生と三郷村政の展開……………385

一 合併へ向けて……………385

1 合併協議会の発足……………385

2 合併促進協議会での新村建設計画……………386

二 三郷村の誕生……………386

三 新村の基礎固めの松岡村政……………388

1 村長松岡の誕生……………388

2 役場庁舎の建設と役場組織の整備……………388

3 苦しい財政のなかでの新規事業への取り組み……………388

4 真々部の三郷村への合併ならず……………388

5 四年で上水道建設事業完工……………388

6 村長松岡の再選と三郷スカイライン……………388

7 三郷祭と全国表彰で盛り上がる一体感……………388

8 村長松岡の逝去……………388

四 発展する神谷村政……………393

1 村長神谷の誕生……………393

2 直面する上水道負債の償還問題……………393

3 上高地スカイライン問題……………393

4 新産業都市の指定と十周年記念式典……………393

5 農業の近代化と構造改善事業……………393

6 積極的な施策の推進……………393

五 高度経済成長長期の中田村政……………395

1 村長中田の誕生……………395

2 中田村政の重点施策……………395

3 変わる農業……………395

4 順調に進む新たな事業……………395

5 三郷スカイラインの断念……………395

6 中田村政二期目の大規模事業……………395

7 人口増加と宅地造成……………395

8 村長中田の急逝……………395

六 村の活性化と大型事業推進の帯刀村政……………399

1 無投票で村長帯刀誕生……………399

2 積極的な大型事業の実現……………399

3 生活様式の都市化とごみ処理問題……………399

4 盛り上がるやまびこ国体への参加……………399

5 豪雨と早魃災害……………399

6 再選された村長帯刀……………399

七 田園都市づくりを目指した小林村政……………404

1 村長帯刀の退任と村長小林の当選……………404

2 大きな台風一〇号の被害……………404

3 増える人口、施設の増築……………404

4 合併三十周年記念行事……………404

5 福祉と都市化への対応……………404

六 多方面に事業を展開した務台村政……………408

1 中信平左岸土地改良事業竣工……………408

2 「ふるさと創生」事業……………408

3 文化公園の建設……………408

4 「夢ひろがる福祉の郷」建設……………408

5 下水道事業に本格的着手……………408

九 直面する社会的課題と丸山村政 …………… 411

1 村長丸山が誕生

2 三郷村一般廃棄物最終処分場完成

3 「楡の郷・三郷サラダ市」建設

4 堆肥センター「ユキピアみさと」の建設

5 介護保険制度の導入

6 「室山荘」から「ファインビュー室山」へ

十 半世紀の三郷村を締めくくる西山村政 …………… 414

1 三郷村最後の村長西山

2 安曇野農業水利事業（広域排水事業）

3 期待されたトマト栽培施設の完成

4 新黒沢ダムと「脱ダム」宣言

5 三郷村合併五十周年記念行事の開催

6 「安曇野市」誕生に向けて

第二節 三郷村議会の議員選挙と運営

一 三郷村発足直後の村議会 …………… 419

1 迅速な決定がなされた臨時村議会

2 村政運営の基本を審議

二 新議員による村議会 …………… 420

1 選挙と議会構成 2 新村建設基本計画の策定

三 発展する村政と村議会 …………… 421

1 村政改革問題と村議会

2 奥地開発・統合小学校建設と村議会

3 広域行政・環境・福祉が課題

四 多様化する村民生活と村議会 …………… 424

1 不況対策と村議会 2 身近な生活問題と村議会

3 村民憲章・景観を守る宣言

4 「みさと議会たより」の発行

5 選挙ポスター掲示場の設置

五 町村合併への動きと村議会 …………… 426

1 合併問題への対応 2 黒沢ダムと村議会

3 ごみ不法投棄問題への対応

4 女性議員と模擬村議会

第三節 三郷村財政の展開

一 三郷村財政のあらまし …………… 429

1 村財政とは 2 村政の動向と村財政

3 一般会計決算額の概況 4 村税の変遷と現状

二 復興期、財政再建期と三郷村の財政 …………… 434

1 合併当時の財政状況と財産

2 村財政の苦境と再建

3 上水道敷設事業と教育費の増大

三 経済の高度成長と三郷村財政 …………… 438

1 歳入の構成と変化 2 起債の手続きと公債費

3 歳出の構成と変化

四 安定成長期の三郷村財政……………441

1 歳入歳出の推移……………441

2 村の大型事業と村債中心の財政……………441

3 ふるさと創生「一億円」事業と地域づくり……………441

五 三郷村における特別会計の変遷……………444

1 継続する会計と閉鎖となる会計……………444

2 繰入金が必要な福祉事業……………444

3 急ピッチで進む下水道工事……………444

六 三郷村財政の現況と課題……………447

1 平成十二年度の財政の現況……………447

2 自主財源と依存財源……………447

3 積立金の現状……………447

4 村財政の今後の課題……………447

第四節 県政・国政選挙と村民……………453

一 県知事選挙と三郷村民……………453

二 県議会議員選挙と三郷村民……………455

三 国政選挙と三郷村民……………457

1 衆議院議員選挙……………457

2 参議院議員選挙……………457

第三章 人口・世帯と人々の交流……………463

第一節 三郷村人口動態の概要……………465

一 高度経済成長期以後の人口と世帯の変動……………465

1 人口の増減……………467

2 世帯数の変化……………467

二 出生と死亡——人口の自然的増減……………467

三 転入と転出——人口の社会的増減……………469

第二節 人口の移動……………471

一 転入・転出人口の流れ……………471

二 季節による人口の動向……………474

三 移動の年齢構成と性別……………475

四 通勤・通学者の流れと昼夜間人口……………476

1 村外への通勤者の増加……………476

2 村外からの通勤者……………476

3 村外への通学者……………476

4 村外通勤・通学者の年齢……………476

5 昼間人口と夜間人口……………476

第三節 都市化と人口・世帯分布の変化……………483

一 宅地化の進行……………483

二 人口増と隣組の変遷……………494

1 住民や村と隣組……………494

2 村の変貌と隣組の移り変わり……………498

三 村内における人口・世帯分布の変化……………498

1 人口分布の変化……………498

2 区別世帯分布の変化……………498

3 区別平均世帯人数の推移……………507

第四節 人口と家族構成の変化……………507

一 性別・年齢別構成……………507

1 性別構成 2 年齢別性別の人口構成
二 少子・高齢化の進行……………511

1 少子化の進行 2 老年人口の増加と高齢化の進行
三 家族・世帯構成の変化……………514

第五節 外国人の増加と外国人労働者……………519

一 外国人の増加……………519
二 外国人労働者……………520

第四章 産業・経済と観光・交通……………523

第一節 産業構造と産業別人口構成の変化……………525

一 産業別人口構成の変化……………525
二 第二次・第三次産業人口の増加……………527

第二節 変貌する農業と農業団体……………529

一 農業の変遷……………529
1 農家数の減少と経営規模の変化……………532

2 農業人口の減少と高齢化 3 経営耕地の推移……………532
4 農業粗生産額の変化 5 農業の機械化の進行……………538

二 稲作の盛衰……………538
1 米の増収対策 2 米の需給調整……………541

三 多様化する農作物と畜産……………541

1 養蚕業の衰退 2 果樹の栽培
3 野菜栽培 4 園芸作物 5 畜産……………548

四 中信平農業水利事業と構造改善事業……………548
1 悲願だった農業用水の確保……………548

2 中信平農業水利事業と県営灌漑排水事業……………548
3 県営圃場整備事業……………548

4 先駆けとなった「二木地区」農業構造改善事業……………548
五 農業委員会の活動……………554

1 農業委員会の発足まで……………554
2 農業委員会の発足と活動……………556

六 農業協同組合の成立と歩み……………556
1 農業協同組合の結成……………556

2 あづみ農業協同組合からJAあづみへ……………556
3 農業共済組合……………556

第三節 移り変わる林業・製材業と森林組合……………561

一 森林組合の広域化……………561
二 移り変わる製材業……………562

三 統計でみる村の林業……………563
四 整備の進む北沢山林、黒沢山林……………565

五 「第四次三郷村総合計画」にみる今後の森林保全と林業……………566

第四節 増加する工業生産……………569

一 就業構造からみた産業の変化……………569

1 産業の動向と就業構造……………569

2 村の事業所での就業状況……………571

二 工場誘致条例の制定と工場誘致……………571

1 工場誘致条例の制定……………571

2 工場誘致条例による工場誘致……………572

3 工場誘致の現状と課題……………572

三 工業生産の増加……………572

1 工業生産の推移……………572

2 業種別の企業の状況……………574

四 特色ある地場産業の形成……………574

五 地域開発と建設業……………575

1 地域開発の取り組み……………575

2 建設業の現況……………577

第五節 大型店の進出と商業・商工会・銀行……………577

一 村の商店分布と特色……………577

二 大型店の進出と小売店……………578

三 商業販売額の増加……………579

四 買い物動向と商圏の変化……………580

1 村内商店への買い物動向の推移……………583

2 商圏の変化と地元吸引力……………583

五 企業活動と銀行……………583

1 経済情勢の推移……………583

2 八十二銀行三郷支店の沿革と業務……………585

3 長野相互銀行三郷支店の開設……………585

六 商工会と商業振興策……………585

1 三郷村商工会の沿革……………585

2 商工会の地域活性化の取り組み……………589

3 村の商業振興策……………589

4 商業振興の課題……………589

第六節 発展する観光……………589

一 観光開発と三郷スカイライン構想……………589

1 奥地開発の動き……………589

2 三郷スカイライン構想……………589

3 三郷スカイラインの着工とバスの運行……………589

4 スカイライン登山マラソン……………589

5 県道に編入された三郷スカイライン……………592

二 大滝山麓夏季学生村……………592

三 室山周辺の観光開発……………593

1 室山を中心とした観光開発構想……………593

2 「室山荘」のオープン……………593

3 室山アグリパークの開設……………593

4 温泉の湧出と「ファインビュー室山」……………597

四 黒沢川林間緑地の観光……………597

1 黒沢の滝と黒沢不動尊……………599

2 黒沢川林間緑地の観光開発……………599

五 日本アルプスサラダ街道づくり……………599

1 日本アルプスサラダ街道構想

2 広域的観光イベント

3 楡の郷・三郷サラダ市オープン

六 りんご村を活かしたイベント……………602

1 アップルマラソン 2 アップルウォークラリー

3 林檎村音楽祭 4 りんごの木オーナー制度

5 ニュートンレース

七 歴史・文化の観光資源……………605

1 神社仏閣 2 義民の里・貞享義民記念館

3 三郷村の道祖神

第七節 村の道路・交通・自動車の普及……………609

一 村の道路整備……………609

1 昭和二十年代の主な道路工事

2 昭和三十年代の主な道路工事

3 昭和四十年以降の主な道路工事

4 新しい道路網としての農道とその利用

5 道路愛護作業の経過

二 バス路線の廃止と自家用自動車の普及・鉄道輸送の変遷……………614

1 バス路線の推移 2 自家用自動車の普及

3 郷土の大系線鉄道の推移

三 通勤・通学と交通手段の変化……………617

四 交通事故と安全対策……………618

1 交通環境と交通事故の状況 2 交通安全対策

第五章 社会生活と福祉・介護……………621

第一節 拡張を続けた上水道事業……………623

一 上水道の完成……………623

1 上水道敷設計画ができる 2 温・明盛地区の工事

3 小倉地区の工事

二 水不足に悩まされて……………626

1 断水そして水源を求めて 2 羽子沢はこざわの水源確保へ

三 大きな水道敷設費の負担……………627

1 日本一高い水道料といわれて

2 またも水不足で新水源を求めて

四 黒沢ダム建設と水道……………629

1 水需要の急増と水源確保 2 黒沢ダム計画と水源

3 黒沢ダムの水が全村へ

五 傷んだ水道管の敷設替え工事……………632

1 長期にわたる工事計画

2 敷設替え工事で上がる有収水量率

3 貯水能力を高めた配水池の増設

六 新黒沢ダムに夢を託して……………634

七 「脱ダム」宣言とその後……………635

八 水道事業会計における財務分析……………636

第二節 未来につながる下水道事業……………637

一 進展する下水道計画……………637

1 高まる下水道整備への関心

2 犀川安曇野流域下水道建設に向けて

二 急速に進む下水道建設……………642

1 建設に向けて 2 建設費の計画

3 受益者負担金 4 拡大する下水道事業

第三節 暮らしに活きる保健衛生・生活環境……………649

一 健康づくりと疾病の予防……………649

1 健康づくりの推進 2 疾病の早期発見と検診体制

二 国民健康保険と医療体制の充実……………652

1 国民健康保険事業の変遷 2 小倉診療所の推移

3 医療機関の現状 4 医療体制の整備

5 「ミサトピア小倉病院」の開設

三 ごみ処理対策……………657

1 住民生活とごみ処理の取り組み

2 ごみの減量化とリサイクルの推進

3 ごみ処理問題と課題

4 西部環境衛生施設組合の対応

5 ごみ処理場建設に向かつての三郷村の対応

6 不燃ごみ最終処理施設の整備

7 産業廃棄物不法投棄の対応

四 尿尿処理・雑排水対策……………663

1 尿尿処理対策 2 家庭雑排水対策

五 墓地・火葬場の整備……………664

1 墓地の需要に応じた整備

2 広域利用の火葬場整備

六 地域防犯体制の充実……………666

七 公害防止と自然環境保全……………667

1 公害の未然防止 2 環境の保全

第四節 信頼と期待に応える消防・防災……………671

一 三郷村消防団が発足……………671

1 消防組織と規則の制定 2 消防施設の拡充

3 火災通報の変遷 4 消防団員の減少と広域消防

二 南安曇郡消防組合の発足と活動……………675

1 消防組合の発足 2 南安曇郡消防組合の活動

三 松本地域広域常備消防の発足……………678

四 南安曇郡消防組合発足後の三郷村消防団の活動……………680

1 分団の再編成・運営費の統一

2 特色ある活動と入賞

3 三郷村消防団活動の現状と期待

五 村の防災対策……………683

1 防災体制の確立

2 消防中心から総合的な地域防災へ

- 3 具体的・実践的施策の地域防災計画
- 4 主な防災活動
- 5 村内における災害発生状況

第五節 生活を支援する福祉・高齢化問題

一 地域福祉の充実に向けて

- 1 社会福祉協議会の発足と事業の推移
- 2 民生児童委員の活動と経過
- 3 ボランティアグループの活動とボランティアセンター
- 4 障害者とともに自立に向けて
- 5 授産所事業の変遷

二 高齢化に呼応して

- 1 高齢化の進展と課題
- 2 老人クラブ活動と高齢者学級
- 3 高齢化対策
- 4 介護保険制度の発足

三 国民年金の変遷

第六章 教育・保育と文化・情報

第一節 学校教育の充実

一 拡大する教育委員会事務局の組織

- 1 選挙から任命制の教育委員へ
- 2 拡大する事務局
- 3 学校設備の充実と教育予算

二 小倉・温明小学校の教育

- 1 三校の密接な連携
- 2 少人数のよさを活かした小倉小学校
- 3 早い小倉小学校の完全給食の実施

5 温明小学校五十周年記念事業

- 4 三校校歌の制定
- 5 温明小学校五十周年記念事業
- 6 室山と小倉小学校
- 7 給食センターの発足
- 8 温明小学校の教育研究
- 9 校舎・施設の整備
- 10 小倉・温明小学校統合へ

三 三郷小学校の教育

- 1 伝統を活かし、新たな教育活動へ
- 2 増える児童数・盛んな教育活動
- 3 子供が主人公の多彩な活動
- 4 さらに充実した教育へ
- 5 実践を積み上げた教育研究

四 三郷中学校の教育

- 1 伝統の樹立と施設の整備
- 2 盛んな運動と教育研究
- 3 新校舎建設と設備環境の充実
- 4 広がる国際交流と心の教育
- 5 地域に根差した学習活動の展開

五 P T A の活動

- 1 小倉・温明小学校 P T A
- 2 三郷小学校 P T A
- 3 三郷中学校 P T A

第二節 幼児教育と保育所……………753

一 幼児教育の高まり……………753

1 母親たちの願いと季節保育所の開設……………753

2 村を動かした母親たちの願い……………753

二 幼児の増加と保育所の建設ラッシュ……………754

三 地域に根差した保育の実践……………756

四 エンゼルプランと保育所の役割強化……………758

五 少子化と家庭環境の変化……………759

第三節 青年団・婦人会の盛衰と男女共同参画社会づくり……………761

一 三郷村の成立と青年団活動……………761

二 三郷村婦人会の活動と衰退……………763

三 男女共同参画社会を目指して……………765

第四節 社会教育の展開と生涯学習……………767

一 三郷村公民館の成立と公民館活動の展開……………767

二 生涯学習社会を目指して……………771

三 三郷村社会教育の現況……………772

1 公民館とその活動……………772

2 青少年健全育成事業……………772

3 社会（人権）同和教育……………772

4 文化財の保護……………772

5 貞享義民記念館とその事業……………772

6 図書室とその活動……………772

7 社会体育活動の推進……………772

四 芸術・文化活動……………782

1 村の公的施設を飾る芸術・文化……………785

2 三郷村文化協会の発足とその活動……………785

3 三郷村芸術文化協会とその現況……………785

第五節 拡大する情報・通信……………785

一 広報文書の普及……………785

1 小倉・温・明盛村の広報……………785

2 広報「みさと」の変遷……………785

3 暮らしのカレンダー……………785

二 有線放送電話と無線放送……………790

1 有線放送電話の設置……………790

2 有線放送電話事業を村へ移管……………790

3 有線放送電話通話部門の廃止……………790

4 防災行政無線の開局……………790

三 電話の普及……………795

四 新聞の普及……………796

1 購読部数の増加する五十年代……………796

2 多様化する新聞と購読者……………796

五 テレビ放送の幕開け……………797

1 ラジオからテレビの時代へ……………797

2 技術革新とテレビ……………797

六 郵政事業の経過とその利用……………798

1 戦後の郵便局の役割……………798

2 三郷村の各郵便局の沿革と業務……………798

七 パソコンの普及……………801

第七章 安曇野市の誕生 803

第一節 町村合併に向けて 805

一 合併の背景と三郷村 805

1 合併の歴史 2 市町村合併の必要性

二 合併へ向けての動き 806

1 郡としての取り組み 2 三郷村の取り組み

三 安曇野地域任意合併協議会と合併協議 808

1 安曇野地域任意合併協議会の発足

2 合併協議項目の検討 3 新市将来構想の策定

4 法定協議会移行へ足踏み

第二節 新安曇野市建設への構想 815

一 法定協議会の発足と事務局 815

二 合併協定項目の概要 816

三 新市建設計画 818

四 最後の地区懇談会を開催 819

五 合併協定項目の協議終わる 820

第三節 安曇野市誕生と三郷村 821

一 「安曇野市」誕生、正式決定 821

二 三郷村最後の予算 822

三 合併へ向けて 822

四 新安曇野市への期待と課題 823

五 社会福祉協議会の合併 824

六 さようなら、ありがとう三郷村 825

付 表 三郷村歴史年表（近代～現代） 827

付 図 一 三郷村図

付 図 二 昭和二十三年「空から見た三郷村」(1)

付 図 三 平成十七年「空から見た三郷村」(2)

執筆等分担 847

史料・資料提供者 協力者 849

参考史料・文献 850

三郷村誌編纂委員会名簿 854

三郷村誌刊行会名簿 856

三郷村誌編纂委員会事務局 859

あとがき 860